

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

「食欲の秋」ではありませんが、偶然、松木町教会と郡山教会が、それぞれ行った宮代仮設住宅での「体にやさしいすぐできそうな男料理」と、避難指示解除準備区域で、このたび解除された川内村仮設住宅での炊き出しをご紹介します。

男の眩き「これならできそうだなあ」

体にやさしいすぐできそうな男料理

カトリック松木町教会「愛の支援グループ」

鈴木 キミ子

「5年後に生きている自分」

仮設住宅集会所のグレーの壁に書かれていた宮代仮設住民のスローガンは、あれから3年経ち、いつの間にか消されている。原発事故でふる里を追われた悔しさから、「5年後にふる里に帰るときには元気でいたい」という強い思いのことばといえた。しかし、除染も思うようにできていない浪江町。現実の厳しさが迫る。仮設住まいも4年目に入り、自治会の話によると、住民の体調が崩れてきているという。ストレス、運動不足、それに食生活の問題があるのではないかとも言う。そこで、私たちは、一品作ることから始めて体調を良くしてもらえたらと「楽しい昼食会」を行うことを自治会と相談した。

リーダー打ち合わせの内容は、次のようになった。楽しい昼食会のメニューの中から5品を実技し、各実技担当者の他に男性数名がアシスタントとしてお手伝いすることとした。自治会男性役員が希望の実技品目のアシスタントを行い、加えて当日参加した男性もアシスタントとして誘うこととした。



楽しい昼食会の前日、ボランティアの男性も慣れない包丁さばきでしたが、皆と笑いの中、松木町教会で準備作業を行った。当日10月24日、宮代仮設集会所には、いつものご婦人方、さらに2週間前に配ったチラシの効果があったのか男性方も参加した。

実技の前に、分かりやすく手作りした食膳レシピ12ページ綴りについて話した。それは、「楽しい料理、美味しく食べて、体も心も元気で、若く～。一品つくることから始めてみませんか？」というもの。さて、実技に入った。

実技では、①黒豆ご飯②一夜漬③温野菜（4種のおひたし）④シーチキンと水菜のマヨあえ⑤ドイツのポテト料理（ライブダーチ）を作った。全くぶっつけ本番のため「え～と」「あれ？」と発しながらも気楽な家庭の台所作業のようだった。

男性アシスタントは、ぎこちなく手伝う人、のぞき込むように見ているだけの人など様々だったが、何となく皆、楽しげに見えた。実技中、手のひらで味見してもらった場面もあり、それによって男性アシスタントの緊張感もほぐれたように思えた。

いよいよ楽しい昼食会に入った。テーブルに並べられた料理は、実技のものやレシピ綴りに出てきたものだったためか、いつもの昼食会のときより舌づつみが聞こえそうで目がキラキラとしていた。

集会所に集まって同じものを食べるということは、楽しく美味しく食も進むことと思う。特に、一人住まいの男性にとっては、目の前で簡単料理をみて、それを食べていることに嬉しさと新鮮さがあったのではないだろうか。

ある男性が「これならできそうだなあ」と呟きながら食べていた。その呟きが、会場全員の知るところとなった。その品目の実技担当シスター熱海(CND)は、思わず「やったあ！」と。「よかったね！つくってみてね！」と応援の拍手もわいた。その後、カラオケを楽しみ「いつでも夢を」を全員合唱。「ごきげんよう、さようなら」で散会となった。

楽しい昼食会后、私たちボランティアと自治会役員との分かち合いがいつものように始まった。そこでも、「やってみます！」と男性方一人ひとりがニッコリと話してくれた。

食の恵みに感謝。



川内村仮設住宅炊き出しに参加して

カトリック郡山教会

福澤 春江

10月10日秋晴れの中、福島県郡山市の若宮前仮設住宅において芋煮会が催されました。若宮前仮設住宅は、原発事故で避難を余儀なくされた川内村の方々の避難先となっています。

今年7月、西千葉教会と茂原教会の方々のリードで初めての炊き出しが行われ、郡山教会もお手伝いしました。二度目となる今回の芋煮会は、西千葉教会の方からお誘いを受けて、また一緒に参加することになりました。仮設集会所の台所が狭いということなどから、芋煮の下準備を全て郡山教会で行うことになり、芋煮会の中心的な役割を任されたことで、郡山教会の支援活動の「一步を踏み出せた」感じがします。

芋煮会当日は、西千葉教会17名、茂原教会8名、郡山教会20名が力を合わせました。西千葉教会はおにぎり・フルーツポンチ・お漬け物、茂原教会はビールを含む飲み物と仮設住宅の参加者へのお土産用クッキー、そして郡山教会は芋煮鍋とキャベツの一夜漬けを担当しました。

西千葉教会の方たちは、前日15時頃にバスで郡山教会に到着され、芋煮会当日は、朝6時のごミサに与った後、炊飯器4台で10kg分のおにぎりを用意してくださいました。



郡山教会の参加者は、8時半に全員が集まり、「さあ、開始です！」ベテランの主婦たちが一斉に台所で100食分の材料を調理しました。その様子は、ご想像にお任せです。

この日は、晴天に恵まれ、なによりの芋煮会日和となったことから、約50名という多くの仮設住宅の方々が参加されました。集会所での開始時間は11時予定でしたが、急きょ30分早まると連絡があり、準備予定を一部変更しましたが、無事に芋煮の鍋も出来上がり、遅れることなく開始の運びとなり、一同ホッと胸をなで下ろしました。

この頃、茂原教会の方たちも到着し、一層にぎやかになりました。「芋煮鍋」「輪投げ」「カラオケ」などで、仮設の方々もとても楽しそうでした。食べ物も全て美味しそうで、おしゃべりにも花が咲き、口はとても大忙しでした。

私は、集会所の中で8人（全て女性で、1名の方を除きみんな1人暮らし）の仮設の方々と食事をとりました。ある方は、「このような会がいつもあった方がいい」、ある人は、「お家に遊びに来てほしい」と…。この言葉は、とても嬉しく、この思いに応えたいと思いました。

お話しをしている隣では、カラオケをやっていました。皆さんとても上手く、私たちも次回はカラオケに挑戦しましょう！という気持ちになりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、13時に芋煮会は終了となりました。それぞれから色々な思いを胸に、またお逢いできる日を！！



終了後、集会所にて自治会長さんを囲み、分かち合いをいたしました。川内村は今年9月に避難指示解除準備区域が解除となりましたが、村に帰られた方、仮設に残された方、まだまだ問題は山積みしているとのことでした。中でも「心の問題」が一番でしょうと言っておられました。ボランティアの数も減り、解除による補助金の打ち切りなどで、より一層の支援をお願いしますとのことでした。

他の教会との共同作業も大切ですが、これからは郡山教会単独でも一步一步前進していこうと思います。山積みされた問題の中で、私たちに一つでも何か出来ることがあるならば、この問題に取り組んでいきたいと思ひます。

神様、私たちに知恵と勇気と一歩踏み出す力をお与えください！！

祈り



《「東日本大震災復興支援カレンダー」お申し込み受付中》

カレンダーをご希望の方は、カレンダー注文書に必要事項をご記入の上、FAXもしくはメールで、仙台教区サポートセンターまでお申し込みください。(詳細は、カリタスジャパンプログをご覧ください。)

- ・ご注文は5部以上、1部300円以上のご寄付をお願いします。
- ・注文締め切り：2015年2月10日(火)
- ・12月27日～1月4日(年末年始休暇)の間にいただきましたご注文は、休み明けの対応となりますので、ご了承ください。

◆お問い合わせ・お申し込み先

仙台教区サポートセンター

メールアドレス sendaidsc@gmail.com FAX番号 022-797-6648
電話番号 022-797-6643